

世の中に役立つことを
1つでも残すため、
挑戦し続けたい

株式会社1623@home 代表取締役 小林博文さん

もんじゃ焼き、お好み焼きの店「が☆じゃもんや 三輪店」を運営する「株式会社1623@home」。同社代表取締役を務めるのは、元住宅営業で店のオープン当時はサラリーマン店長として奮闘した小林博文さんだ。まったくの異業種・異職種にも臆せず挑んだ小林さんだからこそ、出会えた人々や見えた景色があるに違いない。



■ 住宅営業から飲食店店長へ転身

大手建設会社で住宅営業職に就いていた私が、ある日突然役員に呼び出されて告げられたのが、「飲食店を任せたい」のひと言でした。サラリーマンですからyesかnoなわけですが、猶予としていただいた3日間で家族や親しい友人たちに相談し、自身も考え抜きました。そして出した答えは、「まずは挑戦すべし」でした。

■ 流れに逆らわず、前向きな思考で

中野市の農家に生まれた私は、子どもの頃から家業を手伝うことが当然で、決して裕福とは言えぬ環境で育ちました。どんなに苦しい状況に置かれても「なぜこんな目に…」とは考えず、流れに逆らうことなく前向きに歩んできました。そうやって生きるうちに培われたのは、逆境を生き抜く強さだったのかもしれませんが。周囲を羨んだり、与えられた環境を言い訳に諦めたりすることに何の希望もありません。ですから、挑戦せずに逃げるのが許せないのです。私が言う「自然の流れに身を任せる」とはそういう意味です。意志を持って流れに乗る。つまり、どんな場面でも流れから逃げない。結果はどうあれ、まず乗ってみることを選ぶべきだと私は考えます。

■ 自分自身を裏切らぬ生き方を

とは言え、店長を務めることを承諾してからの日々は怒濤の忙しさでした。開店準備から開店直後のオペレーションの確立に、さらに1年後には競合店の登場で売上が激減するなど、ハードルが次々に現れました。また、オープンから7年後には独立を促され、1週間熟考した後、「この店を続けたい、信頼する従業員たちを守りたい」という気持ちに素直に従うことにしました。なぜなら、自分自身を裏切るような生き方はしたくなかったからです。それに、それらの苦境や岐路は、どんな店を創りたいのか、お客様に何を提供したいのか、誰にどう支えられているのか？と改めて考えて自覚するきっかけを与え、結果として成長を促してくれたように思います。



■ 「未来の自分は今の自分の結果」

独立後は法人として果たすべき役割の大きさに“経営者”の厳しさを実感した気がします。そんな時に頭をよぎるのは、昔先輩が掛けてくださった【今の自分は過去の自分の結果、未来の自分は今の自分の結果】という言葉です。未来は今の私が創る。それを自覚していれば、どんなに苦しくとも中途半端なことはできませんから。



「経営のコツなんて、何もなくて…」と、小林さん。でも、ひとつだけ目指していることがある。それは人の想いや温かさを実感できる「おせっかいな店づくり、職場づくり」である。そんな店であり会社であることが、お客様や従業員に長く愛される理由になると考えている。

小林博文（こばやし・ひろふみ）
株式会社1623@home 代表取締役

昭和42年中野市生まれ、長野市在住。独立後は特に、支えてくださる地元の方々への感謝を胸に、地域貢献や地域との絆を大切にしている。

